

町報 てんのり

町のうごき	
本籍数	5,472
本籍人口	16,682
世帯数	4,557
	(4,579)
住民登録人口	16,786
	(16,706)
内	{
男	8,181
女	8,605
2月1日現在	
()内は1月1日現在	

発行・秋田県天王町役場 電(018878)2211~4

編集・企画室 印刷・秋田協同印刷 電(0188)237477~8

二月十六日に臨時町議会

新議員による初議会開かる

議長に渡部新一氏 副議長に佐藤栄蔵氏

二月十六日、改選後初の臨時町議会が開かれ、議長に渡部新一氏、副議長に佐藤栄蔵氏が選出された。

続いて各常任委員会の委員と男鹿地区消防一部事務組合議会議員、男鹿地区衛生処理一部事務組合議会議員を選出した。また、町監査委員の選任について審議され、原案どおり可決された。



▲左から佐藤、越前屋、三浦兼吉、藤原、安田の各新議員



▲左から渋谷、渡部金蔵、越後谷、児玉の各新議員



▲左から高橋、鎌田、佐々木、薄田、三浦重春の各新議員

▽総務委員会
鎌田堅治郎、○三浦多喜蔵、

▽建設委員会
原直一郎、渡部金蔵、薄田国三郎

▽天王町監査委員 桜庭周光

▽男鹿地区消防一部事務組合議会議員
安田慶悦、佐々木吉男、三浦多喜蔵、堀井克見

▽男鹿地区衛生処理一部事務組合議会議員
藤原直一郎、越後谷一、鎌田堅治郎、三浦重春

▽文教社会委員会
三浦兼吉、○佐々木吉男、越後谷一、伊藤邦夫、渡部新一

▽産業経済委員会
○児玉長栄、○吉田新悦、佐藤栄蔵、高橋留吉、桜庭周光、

▽天王町監査委員 桜庭周光

▽天王町監査委員 桜庭周光



▽渡部議長の略歴



▽佐藤副議長の略歴

町議会議員連続五期目、副議長二期。
国鉄に三十五年勤め、元国鉄追分地区評議会議長。町都市計画特別委副委員長。総務委副委員長。
天王町天王字追分西一一二。商業。六十一歳。

町議会議員連続三期目。文教社会副委員長。総務委員長を歴任。
農業委員会会長三期。現農協理事。
天王町天王字二田一一五。農業。四十九歳。

追分乳児保育所で 公開保育研究協議会開かる

の「考察」をテーマとし、午前九時三十分からひまわり組(三歳児)の公開保育が行われた。その後、会場を追分老人憩の家に移し研究協議に入った。

二月二十日昭和五十三年度保育研究指定保育所となつている追分乳児保育所で公開保育研究協議会が開催された。当日は男鹿、南秋、秋田河辺の各保育所から五十三名の保育士が出席し熱心な研究討議が行われた。今回の公開研究協議会は「三歳児のあそびの一考察」をテーマとし、午前九時三十分からひまわり組(三歳児)の公開保育が行われた。その後、会場を追分老人憩の家に移し研究協議に入った。



公開保育の経過報告をする追分乳児保育所の職員たち

初代名誉町民

二田是儀氏

八十三歳の生涯を閉じる



本町の初代名誉町民である二田是儀氏が、一月三十一日、八十三歳の生涯をとりおされた。

故二田是儀氏は、明治二十八年に生まれ、大正十年東京帝国大学文学部を卒業。その後、町村長三十一年、県議会議員十一年、衆議院議員三年を歴任し、政治生活三十八年にわたって数多くの業績をあげられました。

さらに、各種産業団体の要職を歴任、八郎潟干拓事業をはじめ、土地改良事業の推進など、本町はもとより、秋田県の農業基盤整備に尽力され、地域社会発展のため、大きな功績を残され、昭和四十四年には、天王町初代名誉町民となりました。

葬儀は、二月六日町公民館において町葬で行われ、各界から

在京天王会

思い出話に時も忘れて

二月十日、東京日本青年館で「在京天王会」が関係者多数出席して行われた。

貴和会長があいさつ、年一回の再会を喜びあった。

このたびの天王会には、石川教育長、戸田建設課長、天王中の二田先生が出席し、町の現状とこれからの展望などを報告。

席上、年々変わりゆくふるさとの現況に驚きと、喜びの声飛びかき、遠くふるさとに想いをこめていた。

会場では、何十年ぶりに対面した方もあって、お互いに名前を確認すると涙を流し、肩をたたきあって再会を喜び、時の過ぎるのを忘れて思い出に花をさか

収支決算などの報告の後、三浦



▲ 思い出話に時も忘れて

多数の方々を弔問におとずれ、天王町の生んだ偉大な指導者の面影が偲ばれました。町民一同、故二田是儀氏の冥福をお祈りいたします。

読書感想文

入賞者決まる

▽特選

- ・しづやみちひこ (天王小一年)
- ・ひきがえるくんへ (天王小二年)
- ・こわい「げんばく」 (内田鉄和(東湖小三年))
- ・「ベールブルース」 (越後谷純子(東湖小四年))
- ・「シニバイツァー」 (鈴木哲(天王小五年))

- ・「ケネディ」 (金子智美(東湖小六年))
- ・「鹿踊りのはじまり」 (船木秀信(天王中一年))
- ・「戦争の中の子供達」 (吉田けい子(二田新町))

本町から就職、生活している方で「在京天王会」入会ご希望の方は、

東京都渋谷区神南一丁目の一 岸記念体育館内

日本レクリエーション協会、吉田正志あてお申し込みください (電話(四六八)四三八一〜四)

- ▽入選
- 天王小学校
 - ・すずきいづ子 (家庭建一)
 - ・石山葉子 (嵯峨俊秀)
 - 東湖小学校
 - ・小林真由美 (内田鉄嗣)
 - ・小林あゆみ (米谷千鶴)
 - 出戸小学校
 - ・あんようじみゆき (小玉達)
 - ・佐々木卓栄 (佐々木理更子)
 - 追分小学校
 - ・よしぐちひさよ (坪田まき)
 - ・黒さわせつ子 (藤田光子)
 - ・中島幸子 (佐藤真奈美)
 - 天王中学校
 - ・豊沢 忍
 - ・中村美穂子 (加藤稔子)
 - ・蒲沼 加藤佑子

郷土史コーナー【76】

サンペイ シンペエ

トントントン……。ワラ打ちの音が冬の夜に響きわたる。ひと昔前のひとときである。

長く寒い冬は、農家にとって縄、むしろ、ワラグツ、ぞうりなど一年間使用するワラ加工品を作る季節である。

ワラはその他に、燃料、飼料、堆肥、壁、雪囲いに利用し、かぶり物、雨具など各種の日用品を作り、生活を豊かにしてきた日本人の主食は、米であるため稲作の副産物としてワラは身近かにたくさんあった。

ワラの加工は、良質なワラを選び、スベ(下葉)をとり、先端のミゴ(芯)をぬき細繩をなう。細繩は、こまかい細工や丈夫なものを作る時に使う。

ワラは、むしろや俵を除き、ワラ打ちをし、柔かくして使用

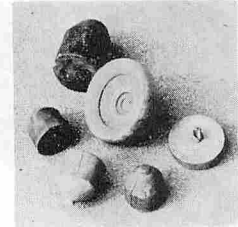
郷土史コーナー【77】

ジグリ回し

「テート、ブーツ、コソッ。」男の子どもたちは、寒さをはね返す元気な声をかけ合って、ジグリ回しに興じた。

(出戸では、「サーサー、ゴイゴイ、ゴーン」と声をかけた)雪がちらつく頃になると、赤緑、黄と鮮やかに彩られたジグリが十文店(子ども相手の店)に並べられた。

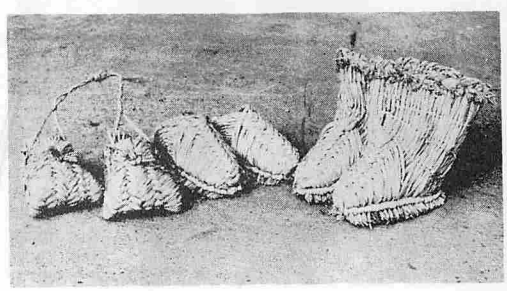
雪を踏み固め、さらにジグリの腹でこすって滑らかなくぼみをつくり、そこへ目がけて回して遊ぶ。(その固いくぼみを、シロゲ、テンケなどと呼んだ)



子どもたちは、回る長さを競い、負けた者のジグリは力いっぱい打ちつけられた。ただし、石に打ちつけることはルール違反とされた。また、一つのテンケに同時に投げ入れて回し換ねとばせ、回転力を争った。クレヨンで彩りしさを自慢し合った。

回すための細なわは、稲ワラで子どもが自分の手で作ったものであった。なかには、細布と麻をないまぜたひもを用いて、仲間うちらやましがられる者もいた。

ジグリにも、昨今高価な民芸品扱いになったが、子どもたちには伝えない遊びの一つである。(石川 記)



「ヘエ、というのは異説もあるが、縦繩の両側から横ワラを三本もつて編むものをサンペイ、四本のもをシンペイ五本のもをゴンペエと呼んでいる。(菊地 記)



ちよつと

“ひとこと”

自分のことは自分で

春のおとずれとともに、保育所や幼稚園にお入りになるお子さまを持つご家庭では、何かとおいそがしいことと思

います。さて、子どもはいずれ親から離れ自立します。その第一歩が保育所や幼稚園に入ることから始まります。まず三歳を過ぎたらできるだけ自分の身のまわりの事は自分でさせましょう。

必要な時、急に覚えさせようとしてもなかなかうまくいかないものです。そこにはおのずと毎日の積みかさねが大切です。

子どもは、親を手本に言葉や動作をまね、社会性を身につけます。

毎日の生活の中に次のことをあせらないでやらせましょう。

- ねまきを脱げるようにしましょう。
- ひとりで上着を脱げる。(スモックやベストなどボタンがなく簡単に脱げる服など)

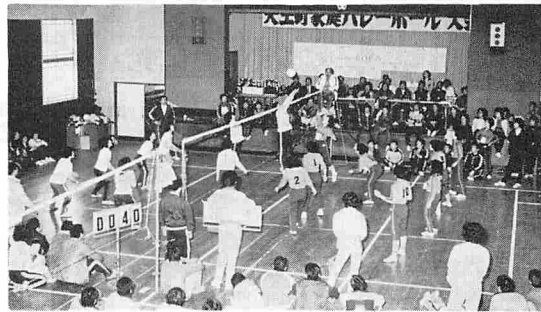


- 衣服も夏ならひとりで着れる
 - 洗面もひとりでさせる。
 - 歯をみがかせる。(上手にはできないので足りないところは母親が補う。)
 - 食事の折、ハンをどうにか使える。
 - 食前の手洗いと、食後のうがいを習慣づける。
 - トイレの場合、冬は無理でも夏はズボンを脱いでできる
 - ひとりで自分の寝床でねむれる。
- など、これらのことができることが望ましいわけです。うまくできず、イライラしている年齢ですが、上手下手は別にしてやろうとするその芽をのぼしてあげましょう。

不用犬を回収します

近年、犬による事故が相ついでいます。犬の事故といっても飼主の責任となりますので、不用となった犬は、保健所で次の日程で回収します。

▽とき 3月14日(水) 午前10時
▽ところ 役場前



全町家庭バレーボール大会
主婦の部
大崎チーム
二連勝なる
実力が平均化した各チーム

二月十八日、町恒例の全町家庭バレーボール大会が町公民館体育館を主会場に三会場で行われた。今大会から、従来の柔かいボールからかたいボールに変更されたが、何の抵抗もなくスムーズに試合が進行。総参加チームは六十二で、うち若妻が二十四、青年二十一、壮年九、主婦七の参加となった。今大会も前大会同様、順位が入り変わるなど破らな大会となり、主婦の部の大崎チームだけが二連勝をとげた。

▲ 強烈なスパイクの応酬 (若妻の部決勝)

▽青年の部	優勝 塩口北野 A	準優勝 羽立北野 A	三位 天王 A
▽壮年の部	優勝 天王 A	準優勝 追分	三位 大崎
▽若妻の部	優勝 蒲沼松	準優勝 出戸新町 B	三位 中羽立
▽主婦の部	優勝 大崎	準優勝 二田栄町	三位 児玉

若妻の部では、蒲沼チームが圧倒的な強さで他チームを連破して優勝。主婦の部では、実力が安定してきた大崎チームが二連勝をとげた。壮年の部では天王チームがうまさを見せ、優勝にかえりすぎた。成績は次のとおり。

出戸小スキー教室

田沢で楽しく講習会

一月三十一日から二月一日の二日にわたって出戸小学校のスキー教室が田沢国際スキー場で行われた。出戸小のスキー教室は、冬期の体力作りとスキーを通して規律ある豊かな仲間づくりを目的に毎年行われていて、今年で七回を数えた。

昨年までは、日帰りで行われていたが、より充実したスキー教室を」と今年から一泊で実施されたもので、成果は上々。生徒にも好評で来年も宿泊で行う予定とか。



班編成は、上級、中級、初級の七班に分けられ、七十名(五・六年生)が参加した。一月三十一日、各班ごとにゲレンデに分かれ、スキー講習を

行い、夜には映写会と各班ごとのミーティングを開き、反省と予習を行った。二月一日は雨で講習が危ぶまれたが、晴れ間をみて直滑降やブルックボーゲンなど、基本に重点を置き、午前中で楽しいスキー教室を終えた。

短歌

天王町短歌会(一月分) 伸び足らぬ髪に水つけける子の頬に十五の紅き血の色 天王 児玉三朗 雪分けて父の掴みたる七草を母粥に炊きし姿恋しき 二田 渋谷キ

俳句

天王町俳句会 (二月分) かるき雪二の字の跡を薄く消し 追分 藤原 邦 喪の家を辞して水雨を一人なる 下出戸 佐々木汀月 列車来て暖冬のはなしとぎれたり 追分 安田鹿山 雲水の素足冷し長廊下 天王 京谷郷愁 杏荷繩吾が芸術蔵開き 天王 米谷冬華 空晴れて七草雑煮匂う部屋 構えつつ除雪なきまま二月かな 渋谷 戸田栄春 関鶏やこもの竹梓汗に反る 二田 山田 琴 雄物川ウグイ釣る老夫斜光浴び 街灯がひとつ欠け街寒に入る 大崎 菅原由松 天王 京谷蒼湖

